

| | | | | | | |
|-------|-------|------|---|-------|------|------|
| 指定校番号 | 30041 | 学級活動 | ○ | 生徒会活動 | 学校行事 | 別紙様式 |
|-------|-------|------|---|-------|------|------|

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|----|------|--------|--------|
| 学校名 | 熊野町立熊野中学校 | 校長 | 米谷 剛 | 生徒指導主事 | 平岡 健太郎 |
|-----|-----------|----|------|--------|--------|

取組事例名 『主体性を育成する生徒会活動』

取組における育てたい資質・能力

| 人間関係形成 | | 社会参画 | | 自己実現 | |
|---------------|---|-------|---|-------------|---|
| 「コミュニケーション能力」 | 3 | 「主体性」 | 1 | 「自ら考え判断する力」 | 2 |

取組のねらい『キーワード 前向き Be Positive』

- ① 生徒の活動を肯定的に評価することで、よりよい生活習慣を身につけることに意欲をもたせる。
- ② 生徒一人一人の意見を学校の運営や取組に反映することで、自己存在感を育成する。
- ③ 異年齢集団による活動を通して、コミュニケーション能力やリーダー性、思いやりの精神を育む。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

- ① ○○強化週間「掃ベル・清掃強化週間」「号令強化週間」
「着ベル強化週間」「自転車かぎかけ3days」
「読書ウィーク」「歯磨きセット調べ」
「勝手に牛乳パックコンテスト」など
- ② 目安箱の設置と校内環境の整備
- ③ 縦割り班活動「心の交流会」
「縦割り遠足」
- ④ 体育祭における生徒会種目「新・借り人競走」



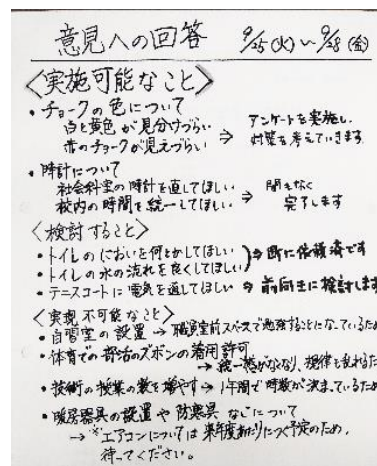
取組の課題・創意工夫『キーワード 自己存在感』

- ① 正しい生活習慣や規律を身につけさせるために、できていないことを注意したり反省させたりするだけでなく、できていることに着目して肯定的に評価するようにした。また、教師主導ではなく、生徒主体で取り組ませ、互いに声をかけ合うことのできる雰囲気づくりを進めた。
- ② 取組の目的を全校にはっきりと説明し、なるべく前向きな意見を出してもらえるような呼びかけをした。また、実現できる、できないにかかわらず、意見に対してはできる限り答えを返した。そうすることで、生徒一人一人に、生徒会の一員であると自覚できるようにした。
- ③ 3年生は「おもてなし」を合言葉に、リーダーシップを発揮する。その姿から、1・2年生にも「おもてなしの心」を学ばせ、伝統として引き継いでいけるようにする。
- ④ 生徒会執行部が企画し運営する競技を、体育祭のプログラムの中に組み込む。なるべく大勢の生徒が参加でき、地域の方や保護者も参加できるようなルールにして、「地域を愛し、地域から愛される学校」づくりを目指す。



取組の成果（効果）『キーワード 良いところが目立つように』

- ① 正しい生活習慣や規律を「やらされる」ではなく、「自らすすんでやる」ものとして、とらえる生徒が増えた。結果は、校内掲示や校内放送で発表するが、良い部分が強調されるようにすることで、生徒も意欲的に取り組んでいる。
- ② 様々な意見が寄せられたが、中でも「チョークの色が見えづらい」というものが複数あった。そこで、養護教諭と連携し、全校生徒に対し「見え方アンケート」を実施。どの場面で、どの色が見えにくいかということを調査し、改善策を講じることができた。
- ③ 縦割り活動は、3年生にとっては大きく成長できる機会となる。日頃は積極性に欠ける生徒も、率先して動いたり後輩とコミュニケーションをとって場を盛り上げようとしたりする場面が見られた。
- ④ 仲間と協力し、地域の方々と協力し、大人も子どもも和やかな雰囲気の中で体育祭の競技を楽しむことができた。



今後の展開『キーワード 基準は前向き』

どの取組についても、マンネリ化することが無いよう、成果と課題を整理しながら改善を図っていく。本校の学校教育目標は、「前向き Be Positive」であるため、「生徒が前向きに取り組むことができる内容になっているか」ということを、毎週開催する生徒指導部会、月に2回開催する執行部会などで模索していく。



他教科との関わり『キーワード 自信をもたせる』

〇〇強化週間は、学習規律に関するものが多い。そのため、取組に力を入れる生徒が増えることは、落ち着いて学習に取り組む生徒が増えることにつながる。

また、各教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践していくためには、失敗を恐れず行動することや、生徒同士または教師と生徒との信頼関係が重要になる。その点で、これらの取組を通して、生徒一人一人が自信をつけることや、様々な関わりにおいてコミュニケーションを充実させることは、各教科の学習につながっていくと考える。

